

2019年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
04010105

1. 計画名称

観光振興ビジョン

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	やや遅れている	説明	従来からの観光資源を活用した通年型のプログラムや大人数参加型のプログラムの造成が遅れていることで、プログラムへの参加者(担い手)数についても、まだまだ伸びしろがあると思われる。
今後の重点化施策番号	1	説明	推進機構の組織の充実と、観光事業者やその他担い手との協力体制の構築が、今後の観光まちづくりに関し、重要なポイントとなると思われる。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	観光を支える人材・組織の充実	やや遅れている	地方創生推進交付金を活用するとともに地域おこし協力隊制度を活用し、地域と協働した交流プログラム作りを実践したことが、結果として住民参加者(担い手)拡大に繋がった。	2022年の単年度2,000人の参加者実現に向けては、年を追うごとにハードルが上がる。継続して協力者の呼びかけをし、ご参加いただく必要がある。	2019年度で地方創生推進交付金の最終年度となり、推進機構が実施するプログラム造成等の事業に対し、組織の自立化(自主財源強化)を目標として最大限に支援する。地域おこし協力隊や卒業した機構プロパー職員とともに円滑かつ効果的な事業実施に導く。
2	多様な観光地の魅力を活かした滞在型観光の推進	おおむね順調	茅野市オリジナル商品の造成について、特に学習旅行向け商品の造成が進んだため、大型学習旅行の受注につながった。また、インバウンド受入に必要な多言語OTAやパンフレット等のツールが完成し、体制が整いはじめた。	新たな視点での旅行商品が多く、従来からの観光資源を活かした旅行商品の造成数が少ない。	引き続き推進機構によるプログラム拡充を支援し、年間を通じた提供体制を整えていく。また、大人数が参加できる従来からの観光資源を活かしたプログラムの造成を働きかける。併せて推進機構が目指す滞在型観光の鍵となる古民家再生事業に対し支援していく。
3	新しい発想による観光資源の創出～観光を横軸にした産業連携、まちづくり	やや遅れている	プログラムの販売がまだ軌道に乗る前の段階であり、利用者数についてもまだまだ伸びしろがあるという現状である。	推進機構の方針として、個人観光客のニーズを優先したプログラム開発から着手したこともあり、通年型のプログラムや大人数参加型のプログラムの造成が不十分。プログラムの造成数の増進に比べ、利用者数は伸びていない。	引き続き推進機構によるプログラム拡充を支援し、年間を通じた提供体制を整えていく。また、大人数が参加できる従来からの観光資源を活かしたプログラムの造成を働きかける。併せて推進機構が目指す滞在型観光の鍵となる古民家再生事業に対し支援していく。
4	観光まちづくりと連動した観光環境整備の推進	やや遅れている	・蓼科湖公衆トイレ整備工事が完了し、道の駅の要件を満たすことができた。 ・蓼科湖公衆トイレ付帯工事、道の駅看板設置工事に若干の遅れが生じている。 ・古民家整備が完了し、インバウンドを含めた受入体制が整った。	・蓼科周辺の整備は整ったが、その他の白樺湖、車山周辺の整備が今後の課題である。 ・外国人旅行者の対応に必要なと思われるWi-Fiや多言語対応ツールなどの整備が遅れている。	・観光地公衆トイレの整備計画については、例えば白樺湖畔の活性化計画等の周辺地域全体の活性化計画と合せて検討し、年次的に今後の整備を進めていく。 ・Wi-Fiや多言語対応ツール等外国人旅行者等に向けた受入環境整備について、すぐに対応が難しいものについては、計画的な整備や対策を検討していく。

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	観光振興ビジョン推進部会	・インバウンドよりマイクロツーリズムに力を入れては。 ・観光にとって依存度の高いデベロッパーとの連携をもっと推進すべきでは。 ・定期的なコミュニケーションが必要。	・ちの割の実施により、首都圏等でなく長野県民等の誘客を推進している。 ・推進機構の開発事業者連携委員会等を通じ、情報交換を図る。 ・推進機構理事会において意思疎通を図る。
開催回数	書面		
参加延べ人数	15		

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」